

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構
平成21年度に係る業務の実績に関する評価結果

平成22年8月

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構評価委員会

目

次

1	評価対象法人の概要	1
2	評価の実施根拠法	1
3	評価の対象	1
4	評価の趣旨及び評価者	2
5	評価方法の概要	2
	（1）評価基準	2
	（2）評価の手法	2
6	評価結果	3
	（1）総合的な評定	3
	（2）年度計画の各項目ごとの評定	4
	1. 診療計画及び診療に関する重点事項	4
	2. 施設設備整備	5
	3. 患者数の見込みと収支計画	5
	4. その他業務運営に関する重要事項	6
	（3）地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構に対する勧告等	6
	地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構平成21年度業務実績に関する評価基準	7
	参考資料 平成21年度実績に関する評価（項目別評価シート）	8

1 評価対象法人の概要

- (1) 法人名等
- | | |
|-----|---------------------|
| 名 称 | 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 |
| 代 表 | 理事長 栗谷 義樹 |
| 住 所 | 山形県酒田市あきほ町30番地 |
- (2) 設立年月日 平成20年4月1日
- (3) 設立団体 山形県及び酒田市
- (4) 資本金の額 6,138,750,178円(平成21年7月7日変更登記時)
- (5) 中期目標の期間 平成20年度から平成23年度(4年間)
- (6) 目的及び業務

ア 目的

地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究等を行うことにより、庄内地域等の医療政策として求められる高度専門医療を提供し、及び当該地域における医療水準の向上を図り、もって住民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。

イ 業務

- ① 医療の提供に関すること。
- ② 医療に関する調査及び研究に関すること。
- ③ 医療に関する技術者の研修に関すること。
- ④ 医療に関する地域への支援に関すること。
- ⑤ 災害時における医療救護に関すること。
- ⑥ 前各号に掲げる業務に附帯する業務に関すること。

2 評価の実施根拠法

地方独立行政法人法(平成15年法律第118号)第28条

3 評価の対象

平成21年度における地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構の年度計画に対する実績の状況

※年度計画・・・中期計画に基づき、当該年度における業務運営に関する計画を定めたもの

4 評価の趣旨及び評価者

(1) 評価の趣旨

地方独立行政法人法の規定に基づき、地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構（以下「病院機構」という。）が、庄内地域における中核病院である日本海総合病院及び日本海総合病院酒田医療センターの運営を行うにあたり、住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上、業務運営の効率化等について自主的、継続的な見直し及び改善を促すことを目的に、地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構評価委員会（以下「評価委員会」という。）が業務の実績評価を行う。

(2) 評価委員会

委員名	氏名	役職等
委員長	嘉山 孝正	独立行政法人国立がん研究センター理事長
副委員長	里見 進	東北大学副学長・東北大学病院長
委員	齋藤 緑	NPO法人あらた代表理事
委員	佐藤 正一	日本公認会計士協会山形県会
委員	本間 清和	山形県医師会（酒田地区医師会長）
委員	大野 省太郎	酒田商工会議所副会頭 （東北東ソー化学株式会社 取締役社長）

（委員名順：順不同）

5 評価方法の概要

(1) 評価基準

病院機構平成21年度業務実績に関する評価基準。（別紙のとおり）

(2) 評価の手法

病院機構の自己評価結果を含めて聴取し、これをもとに評価する。

6 評価結果

(1) 総合的な評定

評価委員会は、病院機構より提出された、平成21年度計画に係る事業報告書及び評価基準により自己評定した結果について、適正な評価であると認め、次のとおり評定した。

平成21年度は、地方独立行政法人設立後2年度目であり、病院機構が運営する日本海総合病院、日本海総合病院酒田医療センターという2つの病院において、産婦人科を日本海総合病院へ集約化するなど、引き続き医療機能の集約と再編等により、効率的な業務運営がなされており、診療科目の病院間における再編による医師の負担軽減等も行われており、地方独立行政法人化による病院統合という点において、全国的にも非常に良いモデルケースとされている。

また、救急医療においては平成20年度より、小児救急外来に対する地元医師会による診療支援を実施しており、地元医師会との連携も効果的に進められ、また、酒田地区広域行政組合の救急ワークステーション整備も行われている。在宅介護支援及び療養支援の面でも、病院内に地域医療室と称する相談窓口が設置されており、他の医療機関等との連携の面で大きく効果を上げている。

職員配置、就労環境の整備の面では、2病院間の医療機能の集約・再編による弾力的な人員配置を行ったこと、院内保育所の24時間対応の実施や、業務改善委員会によるスピード感のある改善と専門職種間の連携強化に努めたこと、院内研修等の実施により、医師や看護師等の専門技能の向上に取り組んだこと、緩和ケア認定看護師等の養成、医師や看護師の負担軽減を図るためにクラークや看護補助者を配置するなど、優れたスタッフの確保と業務負担軽減についても、引き続き積極的な取り組みがみられるところである。

財務内容についても、平成20年度に引き続き黒字決算を計上。平均在院日数の短縮と実入院患者数の増、平成21年度よりDPCを導入したことによる診療単価の増などにより、中期計画全体の目標である経常収支比率100%以上が引き続き達成されていることなどは、高く評価されるものである。

来院者の利便性向上については、院内にコンビニエンスストアをオープンさせ、また、駐車場整備による来院者用駐車場の拡大など、患者サービス等の向上に対する取り組みがなされている。反面、外来診療については、日本海総合病院への外来診療の集約等に起因した待ち時間の増加という課題も生じて来ている。待ち時間の実態把握を行い、午後の診療時間を拡充する等の診療時間の弾力化、会計時間の短縮のため、自動入金機を会計窓口脇に移設するなどの対応がなされているものの、待ち時間の解消等については、今後さらなる進展に期待したい。

以上、全体として、病院機構が病院の統合再編、法人化のメリットを活かし、これまで2つの病院が培ってきた診療科目等における特色・強みを打ち出している状況が十分見受けられ、平成21年度計画に対する業務の実績については引き続き良好であり、理事長を中心とした病院機構の業務運営に対する努力については、評価委員会としては高く評価するものである。

(2) 年度計画の各項目ごとの評定

評価委員会では、病院機構側の自己評定を参考に、以下の45項目について評価を行った結果、評価Aが20項目、評価Bが24項目、評価Cが1項目という評価結果とした。

1. 診療計画及び診療に関する重点事項

ア 評定

年度計画に対する実績は計画を上回っている。

イ 理由

独立行政法人設立初年度に引き続き、2病院の診療科目の統合などによる医療機能の集約と再編等により、効率的な業務運営がなされている。また、独立法人化により、理事長のリーダーシップを活かした取り組みが進められていることにより、法人化のメリットを生かした、着実に期待以上の成果が見受けられる。

ウ 評価した項目

①項目数

36項目 【評価 A：13、B：22、C：1】

②特筆すべき項目

- ・ 理事長のリーダーシップにより2病院の診療科の集約化など、医療機能の集約と再編等により、一層、効率的な業務運営がなされ、2年度目においても大幅な収益の改善（経営の効率化）（健全な病院経営が行われている。）がみられている。
- ・ 様々な業務改善などを実施するとともに医師事務補助のクラークや看護補助者の配置を拡大し、医師や看護師などの業務の負担軽減を図った。
- ・ 他の地域医療機関との役割分担と連携の強化、地域連携クリティカルパスの整備普及の件については、地域連携パスの取り組みが平成22年度から実施見込みとなっはいることから自己評定では「C」としているが、在院日数の減、地域医療室による地域医療機関等との連携にかかる実績を勘案し、評価委員会としては「B」評価とする。

2. 施設設備整備

ア 評 定

年度計画に対する実績はおおむね計画に合致している。

イ 理 由

日本海総合病院の増改築及び改修工事については、計画どおり平成22年度内に増築・改修工事が完了する予定で工事が進められている。建設費用については総務省が示した公立病院改革ガイドライン以内の建設単価となっている。また、来院者の利便性向上のため、駐車場の整備等も行われた。

ウ 評価した項目

① 項目数

3項目 【評価 A：3】

②特筆すべき項目

- ・ 増改築工事に関連し、駐車場の拡大・整備を実施し、来院者の利便性向上に寄与している。
- ・ 増改築・改修工事においては、総務省が示した公立病院改革ガイドライン以内の建設単価となっている。

3. 患者数の見込みと収支計画

ア 評 定

年度計画に対する実績は計画を上回っている。

イ 理 由

平成21年度も黒字決算を達成。営業損益段階でも黒字であり、また、経常収支比率100%以上を達成するなど、経営管理指標の改善が図られ、財務内容についても良好である。平成21年度よりDPCを導入、診療単価の増につながっている。

ウ 評価した項目

①項目数

3項目 【評価 A：2、B：1】

②特筆すべき項目

- ・ 単年度収支において黒字を計上、営業損益でも黒字を計上している。
- ・ 経常収支比率（経常収益／経常費用）100%以上を達成した。（100.8%）
- ・ 人件費・材料費・経費の営業収益比率とも全国の500床以上の自治体黒字病院の平均値以下を達成した。

4. その他業務運営に関する事項

ア 評 定

年度計画に対する実績はおおむね計画に合致している。

イ 理 由

法人の運営体制については、計画どおり、2つの病院における弾力的な人員配置が行われた。また、診療科の集約に合わせて弾力的な人員配置を行うとともに、業務改善委員会を立ち上げさまざまな意見を業務の改善に反映されたことなどにより、業務の改善・効率化が進んだ。また、院内保育所の24時間対応を実施するなど、就労環境の整備が進んだ。

また、平成22年度に開校する酒田市立酒田看護専門学校の開校への支援として、看護教員の採用等の諸準備が行われた。

ウ 評価した項目

①項目数

3項目【評価 A：2、B：1】

②特筆すべき項目

- ・産婦人科を日本海総合病院に統合し、それに合わせる形で看護師等の弾力的な人員配置が行われた。
- ・平成21年7月より院内保育所の24時間保育への移行が実施され、就労環境の整備が進んだ
- ・平成22年度に開校する酒田市立酒田看護専門学校の開校への支援として、看護教員の採用等の諸準備が行われた。

(3) 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構に対する勧告等

な し

【別紙】

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構平成21年度業務実績に関する評価基準

1 平成21年度業務の実績に関する評価の基本方針

平成21年度地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構年度計画について、その実施状況を調査・分析し、業務の実績についてに評価を行なう。

2 業務の実績に関する評価の方法

計画に掲げた項目ごとに行なう「項目別評価」と「業務実績全体の状況について行なう全体評価」の2つを併せて行なうものとする。

(1) 項目別評価 項目別評価シート

①業務の実施状況を幅広く把握し、可能な限り客観的な評価の実施に努める。

- ・業務実績については、その数量だけでなく、その質についても考慮する
- ・業務実績に影響を及ぼした要因、予期せぬ事情の変化等についても考慮する

②判定基準として以下の5段階で評価し、原則としてその理由を付記する

(判定基準)

「S」 : 計画を大幅に上回っている

「A」 : 計画を上回っている

「B」 : 計画に概ね合致している

「C」 : 計画をやや下回っている

「D」 : 計画を下回っており、大幅な改善が必要

(2) 全体評価

全体評価は、(1)の項目別評価の結果を踏まえ、全体的な計画の進行状況や達成について、記述式等により評価するものとする。

平成 2 1 年 度 実 績 に 関 す る 評 価

(項 目 別 評 価 シ ー ト)

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 項目別評価シート

平成21年度・年度計画	平成21年度・年度実績	評価の視点	自己評価		委員会評価及び意見等	
			判定			
1 診療計画及び診療に関する重点事項						
(1) 診療計画						
<p>平成21年度は、統合再編の2年目にあたり、統合の効果を一層発揮して医療機能の向上を図る。平成22年度に日本海総合病院の施設整備が完了するまでの間については、引き続き2つの病院において急性期医療を分担する。</p> <p>平成21年度から日本海総合病院で増改築・改修工事が始まることから外来・入院患者の診療環境に悪影響がでないよう配慮する。</p> <p>日本海総合病院でDPC（包括的診療報酬制度）を導入することから外来、入院部門と検査部門の調整を密にするとともに、診療機能が低下しないよう留意する。</p>	<p>○統合再編の2年目である平成21年度の診療体制は、統合の効果を一層発揮して医療機能の向上を図るとともに、平成22年度に日本海総合病院の施設整備が完了するまでの間、2病院において急性期医療を分担している。</p> <p>○平成21年度は、日本海総合病院で増改築・改修工事が始まることから外来・入院患者の診療環境に影響がでないよう配慮をした。</p> <p>○さらに日本海総合病院でDPC（包括的診療報酬制度）を導入することから外来、入院部門と検査部門の調整を密にするとともに、診療機能が低下しないよう留意した。</p>	<p>◇日本海総合病院の増改築工事等による外来・入院患者の診療環境に影響がなかったか。</p> <p>◇DPC導入に関連して、入院部門と検査部門との調整を密にして、診療機能が低下しないよう留意されたか。</p>	A	<p>・引き続き2病院間で急性期医療を分担するとともに、平成21年度からは日本海総合病院で増改築・改修工事が開始されているが診療環境に大きな影響は出ていない。</p> <p>・さらに、日本海総合病院ではDPCを導入したが診療機能に混乱はなくおこなわれている。</p>	A	・自己評価のとおり
<p>①日本海総合病院の体制</p> <p>日本海総合病院では、施設整備が完了するまでは外来診療、手術室等のスペース等が限られることから、消化器科、整形外科、神経科・精神科の診療の主体を日本海総合病院酒田医療センター（以下「酒田医療センター」という。）に置くこととする。</p> <p>また、平成21年度当初から産婦人科を日本海総合病院へ集約化し医療機能の向上を図る。さらに、助産師外来を開設するなど地域の周産期医療の充実を図る。</p> <p>なお、救急医療体制は、施設整備が完成するまでの間、2病院の診療体制をベースとしながら、住民や消防・救急等関係機関に混乱が生じないよう、診療体制・救急医療体制を確保していく。</p>	<p>○4月1日に酒田医療センターから産婦人科を日本海総合病院へ集約化するとともに、助産師外来を開設するなど地域の周産期医療の充実に努めた。</p> <p>○診療科は平成20年度と同様の25科体制である。</p> <p>内科、循環器内科、消化器内科（一部）、内視鏡内科、精神科、神経内科、小児科、外科、乳腺外科、小児外科、整形外科（一部）、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科</p>	<p>◇日本海総合病院への産婦人科の集約化、周産期医療機能の充実化は図られたか。</p> <p>◇救急医療体制は特に混乱なく確保されたか。</p>	A	<p>・日本海総合病院においては、予定された産婦人科の集約が行われるとともに、助産師外来の開設も行われた。救急医療機能についても混乱は無かった。</p>	A	・自己評価のとおり
<p>②酒田医療センターの体制</p> <p>日本海総合病院の施設整備が完了するまでの間、集約できない診療科については、酒田医療センターで担っていく。内科は外来のみとし、消化器科、整形外科、神経科・精神科は酒田医療センターが中心となる。</p>	<p>○酒田医療センターでは、4月1日から産婦人科を日本海総合病院に集約化し、6科で診療を行った。</p> <p>内科（一部）、消化器科、整形外科、神経科・精神科、放射線科、麻酔科</p>	<p>◇酒田医療センターについて、診療科の集約は計画どおり行われたか。</p>	A	<p>・酒田医療センターについても、日本海総合病院へ産婦人科の移行を混乱なく行った。</p>	A	・自己評価のとおり

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 項目別評価シート

平成21年度・年度計画	平成21年度・年度実績	評価の視点	自己評価		委員会評価及び意見等
			判定		
(2) 診療に関する重点事項					
医療需要の質的・量的変化や新たな医療課題に適切に対応するため、平成21年度において、次のとおり診療部門の充実及び見直しを行う a) 救急医療 ・2病院による救急医療の円滑な実施	a) 救急医療について ○救急搬送件数は次のとおりであり、2病院による救急医療の円滑な実施をした。 ・日本海総合病院 3,727名(平成20年度)→3,655名(平成21年度) ・酒田医療センター 1,022名(平成20年度)→1,195名(平成21年度) ・合計 4,749名(平成20年度)→4,850名(平成21年度)	◇2病院による救急医療は円滑に行われたか。	B	・救急医療については、引き続き混乱なく実施されている。	B ・自己評価のとおり
・小児救急外来に対する酒田地区医師会の協力による診療支援の充実	○小児救急外来に対する酒田地区医師会小児科医による診療支援の試行的な実施を行っており、21年度も酒田地区医師会小児科医5名の協力を得て救急体制の充実と病院勤務医の過重労働解消につながってきている。	◇地区医師会の協力による小児救急外来の診療支援の充実がなされたか。	B	・小児救急外来に対する酒田地区医師会小児科医による診療支援の試行的な実施が行われ、病院勤務医の過重労働解消につながっている。	B ・自己評価のとおり
・酒田地区広域行政組合と連携した救急ワークステーション整備(平成23年度開設予定)	○酒田地区広域行政組合と連携した救急ワークステーションの整備については、日本海総合病院の増改築にあわせ新棟(南棟)のM3階へその整備を図っている。	◇救急ワークステーションの整備は計画どおり進められているか。	A	・酒田地区広域行政組合と連携した救急ワークステーションの整備については、日本海総合病院の増改築にあわせ新棟(南棟)のM3階へその整備を図っている。	A ・自己評価のとおり
・酒田市・酒田地区医師会・酒田地区薬剤師会との協議による平日夜間・休日診療所の検討(平成23年度中の開設に向け検討)	○酒田市、酒田地区医師会、酒田地区薬剤師会との協議による酒田市平日夜間・休日診療所の日本海総合病院内の平成23年度中の開設について検討を開始したが、開設許可等の諸課題が提起され再検討をしている。	◇平日夜間・休日診療所開設の検討は進められたか。	B	・開設許可等の課題を整理中	B ・自己評価のとおり
b) がん医療 ・外来がん化学療法の充実	b) がん医療 ・外来がん化学療法の充実 ○平成21年度においては外来がん化学療法を延べ2,177名の患者に実施した。	◇外来がん化学療法の充実がなされたか。	A	・外来がん化学療法の実施については、昨年より500名多い2,100名を超える件数を実施した。	A ・自己評価のとおり
・緩和ケア医療の充実	・緩和ケア医療の充実 ○平成20年度から緩和ケアチームに緩和ケア認定看護師を専従として配置し、毎週1回の緩和ケアチームカンファレンスと病棟回診を定着させ、いつでも相談が受けられるように提供体制を整えた。 ○平成20年11月からは酒田医療センターでも緩和ケア回診を行っている。平成21年度の緩和ケア回診の患者数は、日本海総合病院87名、医療センター11名で、延べ1,074名に実施した。 ○また、緩和ケア外来の診察時間を拡大(これまでの午後3時開始から午後1時開始に変更)した。平成21年度の外来患者数は延べ76名である。	◇緩和ケア医療の充実がなされたか。	A	・緩和ケア外来の診察時間の拡大など、体制の充実により受け入れ件数の増加を図った。	A ・自己評価のとおり
・がん相談件数、セカンドオピニオン外来の充実	・セカンドオピニオン外来の充実、院内がん相談支援体制の充実 ○平成21年度のがん相談件数は延べ438件で、前年度の延べ161件に対して2.7倍に増加している。セカンドオピニオン外来の件数は3件であった。	◇がん相談、セカンドオピニオン外来の充実がなされたか。	A	・セカンドオピニオン外来については件数は横ばいであったが、特にがん相談支援体制を強化したため、がん相談件数は2.7倍となった。	A ・自己評価のとおり
・院内がん登録機能、相談支援体制の充実	・院内がん登録機能、相談支援体制の充実 ○平成21年度より、がん相談員として専従の看護師が配置され、情報提供や相談の即応体制が充実した。がん情報図書コーナーの来室件数は110件、図書貸し出し数は199冊であった。	◇院内がん登録機能、相談支援体制の充実がなされたか。	A	・専従の看護師を配置するなどがん相談支援体制を強化した。	A ・自己評価のとおり
c) 脳卒中・急性心筋梗塞 ・専門的医療やCT・MRI検査の24時間対応 ・急性期リハビリテーションの充実	c) 脳卒中・急性心筋梗塞 ○CT・MRI検査の24時間対応の実施 ○心大血管疾患リハビリテーション料Iを新規取得し、適切な運動処方に基づき運動療法等の充実	◇脳卒中・急性心筋梗塞について、専門的医療やCT・MRI検査の24時間対応、急性期リハビリテーションの充実がなされたか。	A	・脳卒中・急性心筋梗塞の対応については、CT・MRI検査の24時間対応を実施するとともに、急性期リハビリの施設基準を高めた。	A ・自己評価のとおり
d) 糖尿病 ・チーム医療による食事療法、運動療法、薬物療法等を組み合わせた教育入院等の集中的治療の充実	d) 糖尿病 ○チーム医療による食事療法、運動療法、薬物療法等を組み合わせた教育入院等について83名の集中的治療を行った。	◇糖尿病について、チーム医療による食事療法、運動療法、薬物療法等を組み合わせた教育入院等の集中的治療の充実がなされたか。	B	・チーム医療による食事療法、運動療法、薬物療法等を組み合わせた教育入院等について83名の集中的治療を実施	B ・自己評価のとおり

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 項目別評価シート

平成21年度・年度計画	平成21年度・年度実績	評価の視点	自己評価		委員会評価及び意見等
			判定		
e)在宅医療支援及び療養支援 ・地域の介護機関・福祉機関・医療機関との連携を強化するための窓口・相談機能の充実	e)在宅医療支援及び療養支援 ○在宅医療支援及び地域の介護機関・福祉機関・医療機関との連携を強化するため日本海総合病院の地域医療室は5人体制、酒田医療センターは2名体制で、訪問看護、退院調整等の推進にあたった。 ○日本海総合病院の地域医療室では、平成21年度では他病院紹介310名、在宅へ319名、老健施設へ73名、特老へ107名、ショートスティ91名、老人ホーム等へ31名、その他110名など、合計1,041名の退院調整を進めている。 ○酒田医療センターでは、他病院紹介340名、在宅へ297名、老健施設へ31名、特老へ38名、ショートスティ50名、老人ホームへ43名、その他42名など合計841名の退院調整を進めている。	◇在宅医療支援及び療養支援について、地域の介護機関・福祉機関・医療機関との連携を強化するための窓口・相談機能の充実がなされたか。	A	・在宅医療支援及び療養支援については、2病院において退院調整などこれまで以上に他の医療機関との連携につながった。	A ・在宅医療支援及び療養支援、退院調整などにおいて、他の医療機関との連携を強化する窓口・相談機能の充実を継続されたい。
f)その他 ・複数診療科を受診する患者の利便性を従来どおり確保するため、2病院間に患者移動用ワゴン車を運行する。	f)その他 ○日本海総合病院では、平成21年度から週2回の助産師外来を開設した。この外来は、妊娠36週以降の妊婦検診と産後の母乳外来からなり、平成21年度は493名が利用した。また、分娩室及び陣痛室の拡大、LDR室2室の設置、個室の整備を行った。 ○複数診療科を受診する患者の利便性を確保するため、2病院間に患者移動用ワゴン車を1日10往復運行している。	◇複数診療科を受診する患者の利便性を従来どおり確保出来たか。 ◇その他受診患者の利便性向上につながる対応がなされたか。	A	・日本海総合病院では助産師外来を開設し、21年度では500名近い利用があった。さらに分娩室・陣痛室の拡大やLDR室の新設など周産期施設の増強を図った。 ・また、引き続き、患者移動用のワゴン車の運行を行い利便性を確保した。	A ・自己評価のとおり
②災害時における協力					
災害時には、災害拠点病院として患者を受け入れるとともに、県の要請に基づき、又は自ら必要と認めるときは、DMAT（災害派遣医療チーム）等、医療スタッフを現地に派遣して医療救護活動を実施する。	○平成21年度は災害発生時に備え、地域の医療機関、自治体等が参加する災害医療訓練に下記のとおり参加した。 なお、DMATの派遣を要請された災害はなかった。	◇災害拠点病院として災害時の患者受け入れ、及びDMAT（災害派遣医療チーム）等の派遣による医療救護活動の実施がなされたか。	B	・DMATの派遣を要請された災害はなかったが、自治体等が参加する災害医療訓練に参加した。	B ・自己評価のとおり
災害発生時に備え、地域の医療機関、医師会、自治体等が参加する災害医療訓練を年1回実施するとともに、地域の医療従事者を対象とした災害医療研修を実施する。	○平成21年度は災害発生時に備え、地域の医療機関、自治体等が参加する災害医療訓練に6回延べ30名が参加した。	◇災害医療訓練、災害医療研修を実施したか。	B	・計画通りの災害医療訓練を実施した。	B ・自己評価のとおり
③政策医療の実施					
酒田医療センターにおいて老人性認知症センターを運営し、老人性認知症患者の専門医療相談、鑑別診断等について継続して実施していく。	○酒田医療センターにおいて老人性認知症センターを運営し、老人性認知症患者の専門医療相談、鑑別診断等について継続して実施した。平成21年度における相談件数は新規相談件数464件、継続相談件数306件である。	◇酒田医療センターにおいて老人性認知症センターを運営し、老人性認知症患者の専門医療相談、鑑別診断等について継続して実施したか。	B	・酒田医療センターにおいて老人性認知症センターを引き続き運営した。	B ・自己評価のとおり ・平成22年度の酒田医療センターより日本海総合病院への診療科移行後についても、引き続き認知症センター(もの忘れ外来)は継続していただきたい
がん・脳卒中・糖尿病・小児医療・周産期医療などの高度専門医療についても、民間の医療機関では導入が困難な技術、先進的な技術を先駆けて導入するなど、地域の中核的医療機関としての役割を果たしていく。	○2つの病院ともに地域の中核病院として、がん、脳卒中の先進的な治療を行っている。	◇地域の中核的医療機関としての役割を果たしたか。	B	・2つの病院とも地域の中核病院として、がん、脳卒中等の先進的な治療を行っている。	B ・自己評価のとおり

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 項目別評価シート

平成21年度・年度計画	平成21年度・年度実績	評価の視点		自己評価		委員会評価及び意見等	
		判定		判定		判定	
④優れたスタッフの確保							
a) 優秀な医師の確保と医師の負担軽減							
高度専門医療等の水準を維持・向上させるため、大学等関係機関との連携の強化や教育研修の充実により、優秀な医師の育成、確保に努める。 臨床研修医の受け入れについては、教育研修体制の充実を図るとともに、報酬等処遇の改善も行いつつ、臨床研修医及びレジデント（専門分野の研修医をいう。）の受け入れ拡大に努める。	○平成21年度の臨床研修医及びレジデントの人数は、それぞれ4名と10名であった。 ○今後の臨床研修医の増員を図るため、研修医募集DVDを作成し、医学生向けの募集活動等に活用した。（平成22年4月の臨床研修医は5名採用）	◇臨床研修医の受け入れについて、教育研修体制の充実、臨床研修医及びレジデントの受け入れ拡大がなされたか。	B	・平成21年度については、臨床研修医募集用DVDの作成などを行った結果、一定の採用につながった。	B	・自己評価のとおり	
医師の負担の軽減により、医師確保と定着化を促進するため、医師について多様な勤務形態の導入を検討するとともに、医師事務補助など医師を支援する職種導入の拡大を図る。	○医師の負担の軽減を図るため医師事務補助など医師を支援するため、各病棟などにクラークを24名を配置した。 ○看護師の本来業務に専念できる体制整備を図るため看護補助者を、日本海総合病院で38名、酒田医療センターで30名配置している。	◇医師の負担の軽減、医師についての多様な勤務形態の導入検討、医師事務補助など医師を支援する職種の導入の拡大がなされたか。	B	・医師の負担軽減のための医療事務補助については大きな効果が出ている。また、看護補助者についても看護師の本来業務の専念に効果があったが、医師の多様な勤務形態の導入についての検討はなされなかった。	B	・自己評価のとおり	
b) 看護職及び医療技術職の専門性の向上							
患者の立場に立った看護及び質の高い療養環境を提供するため、患者及び家族に接する機会が最も多い看護職の意見を病院運営に反映する仕組みづくりに努める。 薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師等の技術職について、研修等を充実し、専門技能の向上を図る。 専門性の高い看護師や薬剤師、技師等が、がんや心疾患、糖尿病等に対するチーム医療の実施において、医師とともに中心的な役割を果たせるよう、必要に応じ体制整備を進める。	○がん化学療法認定看護師、認定看護管理者、各1名を養成し、より専門性の高い看護業務の推進を図った。	◇より専門性の高い認定看護師の養成を図ったか。	A	・看護職の専門性の向上のため認定看護師の養成に努めた	A	・自己評価のとおり	
		◇看護職の意見を病院運営に反映する仕組みづくりに努めたか。	B	・看護職の意見を病院運営に反映する仕組みの一つとして、引き続き、業務改善委員会を開催し様々な意見を業務の改善に反映した。	B	・自己評価のとおり	
	○専門職種である看護師、薬剤師等の技術職について、院内研修等を4回にわたり実施し、専門技能の向上を図った。	◇薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師等の技術職について、研修等を充	B	・看護師をはじめ医療の各専門職の研修については計画的に実施した。	B	・自己評価のとおり	
		◇専門性の高い看護師や薬剤師、技師等が、チーム医療の実施において、医師とともに中心的な役割を果たせるよう、必要に応じ体制整備が進められたか。	B	・各専門職種が活躍できる医療体制を築くため業務改善委員会を設置し、職種間の垣根を越えた改善と連携が深まった。また、専門職種が本来業務に専念できる体制整備のための臨時職員の効果的な配置をした。	B	・自己評価のとおり	
⑤地域連携の推進							
庄内地域における中核的な医療機関としての役割を果たすとともに、他の医療機関との役割分担と連携を強化し、地域医療機関との紹介率・逆紹介率の向上や、地域連携クリティカルパスの整備普及等に取り組む。 地域包括支援センターや地域の介護・福祉機関との連携を強化し、介護・福祉機関への患者情報の提供や、退院時カンファレンスの取組みの強化等により、医療から介護・福祉へと切れ目のないサービス提供ができるように努める。	○北庄内地域における中核的な急性期病院として、他の医療機関との役割分担と連携を強化した。特に医師会との連携により病状が落ち着いた患者さん等には「かかりつけ医」の連携を強化した。 ○紹介率は日本海総合病院が52.7パーセント、酒田医療センターが48.5パーセントである。	◇他の医療機関との役割分担と連携を強化し、地域医療機関との紹介率・逆紹介率の向上や、地域連携クリティカルパスの整備普及等に取り組んだか。	C	・他の医療機関との役割分担と連携強化については大きな成果が上がったが、地域連携パスの取り組みは平成22年度から取り組むことにしている。	B ↑ ↺	・平均在院日数の減等は、他の医療機関との地域連携なしには実現しない。連携パスのシステム導入は平成22年度に先送りされているものの、地域医療連携については、実質的に行われていることから、評価委員会としては「B」評価とする。	
	○地域医療室では地域包括支援センターや地域の介護・福祉機関との連携を強化し、介護・福祉機関への患者情報の積極的な提供や、退院時カンファレンスの取組みの強化等により、医療から介護・福祉へと切れ目のないサービス提供ができるように努めた。	◇医療から介護・福祉へと切れ目のないサービス提供ができるように努めたか。	B	・地域の介護・福祉機関との連携が強化され、医療から介護・福祉へと切れ目のないサービス提供につながっている。	B	・相談窓口である地域医療室において、引き続き、地域の介護・福祉機関との連携を強化し、医療から介護・福祉へと切れ目のないサービス提供の実施を継続されたい。	
⑥クリティカルパスの活用							
効果的な医療を提供し、患者負担の軽減にも寄与するため、電子カルテをベースとしたクリティカルパスの作成及び適用を進める。	○効果的な医療を提供し、患者負担の軽減にも寄与するため、看護部の看護情報担当部署に臨時職員を配置し、電子カルテをベースとしたクリティカルパスの作成に向けて作業を継続した。	◇電子カルテをベースとしたクリティカルパスの作成及び適用を進めたか。	B	・平成21年度は、電子カルテをベースにしたクリティカルパスの作成が進行した。さらに適用を拡大する予定である。	B	・自己評価のとおり	

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 項目別評価シート

平成21年度・年度計画	平成21年度・年度実績	評価の視点	自己評価		委員会評価及び意見等
			判定		
⑦庄内地域における医療水準の向上					
地域の中核的な医療機関として、山形大学、東北大学、公立大学法人山形県立保健医療大学、県立病院などとの人材交流や研修を通して、質の高い医療従事者の育成を推進し、庄内地域における医療水準の向上を進める。		◇大学等や県立病院などとの人材交流や研修を通して、質の高い医療従事者の育成を推進したか。	B	・山形大学、東北大学などとの人材交流等を通じて医療水準の向上に努めている。	B ・自己評価のとおり
⑧住民意識の啓発					
地域住民を対象としたセミナー、広報などを積極的にを行い、住民の医療や健康に対する意識の啓発に努める。 他の機関が行う地域の医療従事者や住民に対するセミナー等への講師派遣についても積極的に行う。	○患者、地域住民向けの広報誌「あきほ」を年間4回発行して、病院機構の様々な情報提供に努めた。 ○酒田市民を対象とした出前講座や地域住民などを対象とした説明会などに参加し、統合再編の経緯や経営状況、施設整備の状況などを説明し理解の増進に努めた。 ○統合再編以降、病院機構と2病院のホームページを開設して、最新の情報提供を図った。 ○がん診療連携拠点病院ネットワーク事業として2回の講演会(延べ370名参加)を開催し、住民の医療や健康に対する意識の啓発に努めた。 ○酒田エフエム放送「ハーバーラジオ」を通じ、病院機構の医師等による医療に係る「総合病院最前線！」の放送を月に2回放送をしている。	◇地域住民を対象としたセミナー、広報などを積極的にを行い、住民の医療や健康に対する意識の啓発に努めるとともに、他の機関が行う地域の医療従事者や住民に対するセミナー等への講師派遣についても積極的に行ったか。	B	・広報誌の発行、出前講座、ホームページの充実、地域エフエム放送や酒田市広報の活用などを通じ積極的に広報をした。また、がん診療連携拠点病院ネットワーク事業として2回の講演会を開催して住民の医療や健康に対する啓発に努めた。	B ・自己評価のとおり
(3) 患者・住民サービスの一層の向上					
統合再編に伴う診療科の移行後の外来、検査、手術、会計等、待ち時間の実態をその都度把握し、外来診療システムの改善及び診療時間の弾力化を図るなど待ち時間の短縮化等に取り組む。	○統合再編に伴う診療科の移行後の外来、検査、手術、会計等、待ち時間の実態を把握し、次のような改善及び診療時間の弾力化に取り組んだ。 ①会計時間の短縮のため自動入金機を会計窓口脇に移動し、混雑時の会計待ち時間解消に努めた。	◇待ち時間の実態を把握し、外来診療システムの改善及び診療時間の弾力化を図るなど、待ち時間の短縮化等に取り組んだか。	B	・会計時間の短縮のため、自動(会計)入金機の設置場所を会計窓口との連携をするなど改善に取り組んだ。	B ・待ち時間の短縮化については、会計窓口の改善、午後の診療時間の拡充等、一定の対応がなされているが、外来診療の待ち時間短縮化については、さらなる改善に取り組まれない。
地域住民に対する医療セミナーを実施し、庄内地域における医療水準の向上を進める。	○がん診療連携拠点病院ネットワーク事業として2回の講演会(延べ370名参加)を開催し、住民の医療や健康に対する意識の啓発に努めた。	◇地域住民に対する医療セミナーを実施し、地域における医療水準の向上を進めたか。	B	・がん診療連携拠点病院ネットワーク事業として2回の講演会を開催して住民の医療や健康に対する啓発に努めた。	B ・自己評価のとおり
院内見学や意見交換の場を設けることにより、患者・住民の目線に立ったサービスの向上の取組みを進める。		◇患者・住民の目線に立ったサービスの向上の取組みを進めたか。	C	・地域住民を対象にした院内見学や意見交換の場を設けることはできなかったが、「患者さんの声」としての投書の対応を掲示している。	C ・「利用者の声」が評価項目として載っていない。次年度以降、とりまとめしたものを提出していただきたい。
ホームページの充実による病院情報の発信力の強化	○病院機構と2病院のホームページを開設して、最新の情報提供を図った。	◇ホームページの充実による病院情報の発信力の強化を行ったか。	B	・それぞれのホームページの充実を図っている。	B ・自己評価のとおり
日本海総合病院において平成20年度から実施した重症心身障がい児(者)短期入所事業については、在宅療養をされている重症心身障がい児(者)が家族の疾病等の理由により介護できない場合に、日本海総合病院の空ベッドを利用して一時的に入所サービスの提供を行う重症心身障がい児(者)短期入所事業を実施した。	○日本海総合病院において平成20年10月から在宅療養をされている重症心身障がい児(者)が家族の疾病等の理由により介護できない場合に日本海総合病院の空ベッドを利用して一時的に入所サービスの提供を行う重症心身障がい児(者)短期入所事業を実施した。	◇重症心身障がい児(者)短期入所事業について、そのサービスの充実が図られたか。	B	・地域要望の強かった重症心身障がい児(者)短期入所事業を継続実施している。	B ・自己評価のとおり
日本海総合病院内に平成20年度にオープンしたコーヒンショップに引き続き、コンビニエンスストアを院内にオープンさせ、患者のサービスの向上に努める。	○日本海総合病院内に平成20年度のコーヒンショップのオープンに引き続き、21年4月には、コンビニエンスストアをオープンさせ、患者のサービスの向上に努めている。 ○平成21年10月1日から北側に職員駐車場を整備し、南側の職員駐車場を患者用駐車場として拡大し、駐車場の混雑解消に努めた。 ○1階エントランスの日よけスクリーンを全面に設置して、院内の環境整備に努めた。	◇患者のサービスの向上に努めたか。	A	・療養環境整備、患者サービスの向上のためコンビニエンスストアのオープンと1階エントランスの日よけスクリーンの設置。職場環境向上のための職員駐車場の拡大を図った。	A ・自己評価のとおり

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 項目別評価シート

平成21年度・年度計画	平成21年度・年度実績	評価の視点	自己評価		委員会評価及び意見等	
			判定			
(4) 統合再編に関する住民への広報						
<p>・施設整備完成までの診療体制等については、引き続き住民及び患者に丁寧に説明していくとともに、地元自治体の広報を含め、多様な広報媒体を活用して積極的に情報提供していく。</p> <p>・医師会・薬剤師会など地域の医療関係者に対する情報提供を行うなど、多方面から住民への広報を進めていく。</p> <p>・施設整備が始まることから、駐車場確保、構内道路の通行制限についても住民への広報を進めていく。</p>	<p>○患者、地域住民向けの広報誌「あきほ」を年間4回発行して、病院機構の様々な情報提供に努めた。</p> <p>○酒田市民を対象とした出前講座や地域住民などを対象とした説明会などに参加し、統合再編の経緯や経営状況、施設整備の状況などを説明し理解の増進に努めた。</p> <p>○統合再編以降、病院機構と2病院のホームページを開設して、最新の情報提供を図った。</p>	<p>◇診療体制、施設整備等にかかる構内道路の通行制限、駐車場の確保等について、住民及び患者、地域の医療関係者等に対し、丁寧に説明するとともに、多様な広報媒体を活用して積極的な情報提供を行ったか。</p>	B	<p>・統合再編に関する住民広報は、広報誌、ホームページ、酒田市出前講座等を通じ積極的に行った。</p>	B	・自己評価のとおり
(5) 法令等の遵守と情報公開の推進						
<p>・法令等に基づき、医療従事者としての行動規範、倫理等について規則化し、所要の研修を行う。</p> <p>・インフォームド・コンセントを徹底するほか、カルテ、レセプト等医療情報の情報開示については、山形県情報公開条例及び個人情報保護条例の適用のもとに、県の機関に準じて適切に対応する。</p>	<p>○インフォームド・コンセントを徹底するほか、カルテ・レセプト等医療情報の情報開示については、山形県情報公開条例及び個人情報保護条例、及び「地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構における診療情報の提供に関する指針」の適用のもとに対応した。診療情報の開示件数は、日本海総合病院で27件、酒田医療センターで2件であった。</p>	<p>◇医療従事者としての行動規範、倫理等についての規則化、所要の研修を行ったか。</p> <p>◇インフォームド・コンセントの徹底、カルテ、レセプト等医療情報の情報開示については、適切に対応されたか。</p>	B	<p>・法令遵守はもちろん、診療情報の開示についても規程に基づき行った。</p>	B	・自己評価のとおり

平成21年度・年度計画	平成21年度・年度実績	評価の視点	自己評価		委員会評価及び意見等	
			判定			
2 施設設備整備						
(1) 統合再編に係る施設整備						
<p>日本海総合病院の増築・改修工事については、平成19年度に実施した基本設計、平成20年度に実施した実施設計に基づき、平成20年度末に入札、契約を行った。今年度当初から着工をする。</p> <p>今年度は、駐車場整備工事、増築棟の杭工事、基礎工事、本工事を行うほか、内外装工事、空調・衛生設備、電気設備工事に着手する。また、同時に既存の施設の改修にも着手し、平成22年度末の完成を目指す。</p> <p>工事期間中は、工事に伴う騒音、構内道路の通行止めなど、患者の医療環境の低下が懸念されるため、影響を最小限にとどめるように努める。</p> <p>酒田医療センターの改修工事については、平成21年度に改めて病院の医療機能を再検討し、平成21年度、22年度の2か年間で基本設計、実施設計を行うように努める。</p>	<p>日本海総合病院の増築・改修工事については、平成21年度から本格的な工事に着手した。駐車場整備工事、増築棟の杭工事、基礎工事、本工事を行ったほか、内外装工事、空調・衛生設備、電気設備工事に着手した。また、既存の施設の改修にも着手し、平成22年度末の完成を目指す。工事期間中は、工事に伴う騒音、構内道路の通行止めなど、患者の医療環境の低下に注意し、影響が最小限にとどめるように努めた。</p>	<p>◇日本海総合病院の増築・改修工事については、計画どおり工事着手等がなされたか。</p> <p>◇工事期間中の騒音、構内道路の通行止めなど、患者の医療環境の低下など懸念される影響を最小限にとどめるように努めたか。</p>	A	<p>・計画通り、平成21年度から本格的な増築・改修工事に着手することにより、予定より早期に診療科の統合・移行が行われることになった。</p>	A	・自己評価のとおり
(2) 高度医療機器の計画的な更新・整備						
<p>・高度専門医療等の充実のため、平成21年度も高度医療機器の更新・整備を行う。</p> <p>・高度医療機器の更新・整備に当たっては、稼働率や収支の予測を十分に行った上で進めるものとする。</p>	<p>別紙のとおり (別添：平成21年度医療機器購入実績)</p>	<p>◇高度医療機器について、計画的な更新・整備がなされたか。</p>	A	<p>・21年度は2つの病院で医療機器を整備し、地域医療の向上に寄与した。</p>	A	・自己評価のとおり

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 項目別評価シート

平成21年度・年度計画	平成21年度・年度実績	評価の視点	自己評価		委員会評価及び意見等
			判定		
3 患者数の見込みと収支計画					
平成21年度における患者数の見込みと予算、収支計画、資金計画については以下のとおりとする。 (患者数の見込み及び収支計画の詳細については年度計画の別紙1も参照)	(別紙の財務諸表(資料4)のとおり)	◇経常収支比率100%以上を達成したか。	A	・初年度から引き続き経常収支比率100パーセント以上を達成(101.8%)	A ・自己評価のとおり
		◇人件費・材料費・経費の比率について、全国における黒字病院の平均値上回らなかったか。	A	・初年度から引き続き、人件費・材料費・経費の比率とも全国の500床以上の自治体黒字病院の平均値以下を達成 人件費比率…51.7%(52.0%以内目標) 材料費比率…24.8%(24.8%以内目標) 経費比率…15.0%(17.3%以内目標)	A ・自己評価のとおり
	県・市病院機構は、山形県及び酒田市に対して負担する債務の平成21年度分の元利償還を期限までに完了した。	◇山形県及び酒田市に対して負担する債務の元利償還を期限まで確実に行ったか。	B	・債務の元利償還は計画どおり行った。	B ・自己評価のとおり

平成21年度・年度計画	平成21年度・年度実績	評価の視点	自己評価		委員会評価及び意見等
			判定		
4 その他業務運営に関する事項					
(1) 職員の配置					
	平成21年度は、酒田医療センターから産婦人科が移行したことにより、酒田医療センターから関係する看護師などの職員を異動し弾力的で適正な職員配置を実施した。	◇弾力的で適正な職員配置が実施されたか。	A	・2つの病院間で産婦人科の統合に合わせて看護師などの弾力的な人員配置を行った。	A ・自己評価のとおり
(2) 就労環境の整備					
日本海総合病院の敷地内の院内保育所については、24時間保育所の開設に向け施設の増改築を図り、21年度の上半期の24時間保育への移行に向けた調整、準備を行う。	日本海総合病院の敷地内の院内保育所については、施設の増改築を実施して7月から24時間保育を実施した。また、入所定員を20人から30人と増員し充実を図った。 また、日本海総合病院では、増築、改修工事にあわせ北側に職員用の駐車場336台分を整備した。	◇院内保育所について、24時間保育所の開設に向け施設の増改築、上半期に24時間保育への移行が計画どおりなされたか。	A	・24時間保育を平成21年7月から実施するとともに、入所定員の増員を図った。 ・来院者駐車場を拡充するため、職員用駐車場の拡大等を図った。	A ・自己評価のとおり
(3) 酒田市立酒田看護専門学校の開校への支援					
現在、社団法人十全堂社が運営をしている「酒田看護専門学校」については、平成22年度から市立の看護学校として再スタートすることになったが、その教育部門を当法人が酒田市より業務委託を受けて実施することで準備が進んでいる。質の高い看護師の養成のために看護教員の採用や教員の育成に努める。	平成22年度から酒田市立酒田看護専門学校が開校し、その教員などの教育部門を当法人が受託することになり、看護教員として8名の職員を新たに雇用するための諸準備を行い、開校に備えた。	◇平成22年度からの市立の看護学校における教育部門を当法人が酒田市より業務委託を受ける準備等の関連で、質の高い看護師の養成のために看護教員の採用や教員の育成に努めたか。	B	・平成22年度の開校に合わせて看護教員の採用等の諸準備を行った。	B ・自己評価のとおり